

第 24 回 (平成 29 年度)

千葉県建築文化賞表彰作品集



主催：千葉県 共催：一般社団法人 千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 森田 健作

平成29年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、建築文化や居住環境に対する県民の意識の高揚と、うるおいとやすらぎに満ちた快適なまちづくりを推進することを目的に平成6年度に創設されました。

第24回となる今年度は、81点の応募をいただき、千葉県建築文化賞検討会議による検討内容を踏まえ、最優秀賞1点、優秀賞5点及び入賞3点の合計9点を選定いたしました。

受賞作品は、新築の建物から既存ストックの有効活用と多岐にわたり、景観、環境、安全や快適性に配慮するなど、本県の建築文化の向上につながるもので、千葉の魅力を高め、地域の活性化に貢献する素晴らしい作品ばかりです。これらの建築物が、地域社会の中で親しまれ、より良いまちづくりの推進に寄与していくことを心から期待しています。

今後とも県では、次世代を担う子どもたちが誇れるような光り輝く千葉県へさらに飛躍するため、全力で取り組んでまいりますので、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、受賞者並びに応募いただいた皆様のますますの御活躍をお祈り申し上げまして、あいさつといたします。

平成30年3月

目 次

千葉県建築文化賞について	1	東京クラシック森のクラブハウス・馬主クラブ棟	9
第24回千葉県建築文化賞選考経過と総評	2	一宮どろんこ保育園	9
トスラブ館山ルアーナ	3	ソーシャルレジデンス船橋	10
銚子商工信用組合本店	4	選考の基準	10
梅郷礼拝堂	5	千葉県建築文化賞検討会議	10
一棟貸し古民家の宿「まるがやつ」	6	千葉県建築文化賞の実績 (応募点数・受賞作品数)一覧	
菅澤武兵衛邸	7	受賞作品の位置	
富津リゾートセカンドハウス	8		

第24回千葉県建築文化賞選考経過と総評

応募81点から9点授賞

(選考経過)

千葉県建築文化賞検討会議委員長 北原 理雄

第24回千葉県建築文化賞は平成29年6月の検討会議で募集要領を定め、7月上旬から9月下旬まで応募を受け付け、総数81点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに投票を行い、一般建築物8点、住宅4点を選んだ。次いで11月の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の検討会議で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

なお、今回も選考の公明性を保つため、委員と関係のある建築物が応募している場合は、そのことを確認したうえで、当該委員は討議に参加せず、票を投じないこととした。

その結果、最優秀賞1点、優秀賞5点、入賞3点を表彰候補作品として決定した。

多くのすぐれた作品を応募していただいた皆さまの熱意に、この場を借りて深く感謝したい。81作品はレベルの高いものが多く、今回も悩ましい選考となったが、その中で建築文化における社会性や公共性の意味が改めて議論になった。

募集部門	選考過程	応募点数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定(第2次選考)		
				最優秀賞	優秀賞	入賞
一般建築物		56	8	1	3	2
住宅		25	4	0	2	1
合計		81	12	1	5	3

(総評)

一般建築物の部への応募は56点で、学校、幼稚園・保育園・こども園の数が多かったが、今回は特に「その他」のジャンルに目を引く作品が見られた。

最優秀賞の「トスラブ館山ルアーナ」は、房総半島南端の丘に建つ保養所である。敷地の海側ラインに沿って2階建ての長い棟が曲線状に配置され、ロビーラウンジや客室から太平洋の大パノラマを望むことができ、麓からは照葉樹林の丘と一体になった軽やかな姿を眺めることができる。また、建設掘削土を利用し、2階からの避難動線とした中庭のマウンド、敷地の土を使った左官壁、高窓による自然換気など、随所に環境共生への配慮が見られる。

優秀賞の「銚子商工信用組合本店」は、銚子市中心市街地に建つ地元金融機関の本店である。各ファサードを2本の扁平柱で支え、コーナーをガラス壁とすることで、交差点の角地に透明感のあるシンボリックな姿を見せている。免震構造を採用し、地震・津波から地域住民を守る津波避難ビルの認定も受けている。地域再生の核となることが期待される建築である。

「梅郷礼拝堂」は、農地と林に囲まれた霊園の一角に建つ宗派不問の礼拝堂である。玉すだれ状の組柱によって支えられた大屋根が、曲線を描く凸型プランの空間を抱き込み、開放的なファサードが周囲の景観と視覚的な一体感を生みだしている。地域に対して開かれた寺院として、さまざまな催事にも活用されている。

「一棟貸し古民家の宿〈まるがやつ〉」は、築200年といわれる古民家を改修した宿泊施設である。構造躯体や建具は既存のものを活かしたうえで、水廻りや断熱性能を現代生活に合わせ、快適な宿として甦らせている。施工・運営に地元の力を導入し、プログラム面でも、古民家を後世に伝え、地域活性化につなげ得るモデルを提示している。

入賞の「一宮どろんこ保育園」は、公立保育園の民営化に伴って建てられた、保育所型認定こども園であり、芝生の園庭とそれをL字型に囲む木造園舎が広い回廊状の縁側を介して一体化している。「東京クラシック 森のクラブハウス・馬主クラブ棟」は、ゴルフクラブ付帯の2つの施設であり、スレンダーな柱とスラブによって構成される端正な森のクラブハウスと、草屋根をかけた温もりある馬主クラブが、森の風景に溶け込んでいる。

一般建築物の部

住宅の部

住宅の部の応募は25点であり、前回の46点を大きく下回ったが、多様なライフスタイルを反映した興味深い作品が見られた。優秀賞の「菅澤武兵衛邸」は、築100年を超える古民家を自分の山の木を使って再生したものである。和室部分は木部を磨き、壁を漆喰として修復する一方、土間をLDKに改修し、思い出の空間を活かしつつ、快適な居住性を確保している。地場の材料と技術を用い、時間をかけて古民家を甦らせることで、地域の環境を含めた空き家問題の解決に一石を投じている。

「富津リゾートセカンドハウス」は、東京湾に面した敷地に建つリゾートハウスである。アウトドアリビングの中庭をコ字型に囲む中庭住宅であり、海と富士の眺め、波の音、汐風が、五感にゆったりとした時の流れを伝える。白い壁に包まれた建物だが、愛車の駐車スペースでもあるアプローチが海へと視線を誘い、表情を生みだしている。

入賞の「ソーシャルレジデンス船橋」は、築45年の社員寮を改修したシェアハウスであり、密集市街地の周辺スケールに配慮しつつ、多様な住まい方に快適な場を提供しようとしている。

建築主：関東ITソフトウェア健康保険組合
 設計：株式会社 日建設計 一級建築士事務所
 所在地：館山市洲宮833-1

太平洋を見下ろす丘の上の保養施設

トスラブ館山ルアーナ



敷地の原風景を踏襲した安全安心な中庭

(撮影/ 森 雅博)

房総半島と南端の高台に建つ保養施設。ITS健保の組合員およびその家族の健康増進のための宿泊施設である。長さ160mほどの弧を描いた2階建ての建物が丘の上に横たわっている。下から見上げると、丘のラインをなぞるようにずっと建物が付加されており、規模に比して既存景観に馴染んでいる。

1階にレストランや浴室・屋内プールなどの施設を配し、2階に客室がずらっと並ぶ。太平洋が一望できる半面、外洋からの強い風に曝される立地だ。敷地海側にあった土手を削って、反対側にマウンドを築き、海側のラインに沿った建物とマウンドで、円形の中庭を守るように囲んでいる。風土に呼応した巧いデザインだ。23室ほどの客室は、中庭側の廊下から客室に入ると、海に開いた空間の膨らみが心地よい。駐車スペースはマウンドの背後にあって、2階客席廊下から見ても目に入らないように計算さ



周辺環境との共生を図った外観

れている。中庭からは、2階廊下の開口部高さがおさえられていることの効果もあって、実際のスケール以上にのびのびとした広がりを感じられる。

エントランスからロビーにかけての壁に、この地に特徴的な地層のメタファが読み取れる。色の異なる土を塗り重ねて溝を彫り込むことで表現している。

房総半島には、高度成長期から、民間企業の福利厚生施設や自治体、大学の合宿所、公共の保養所など、多数建てられてきた。老朽化して処分に困っているものも少なくない。「トスラブ館山ルアーナ」は、数十年後に今の機能を失ったとしても、丘から変わらぬ太平洋を見下ろす建物であり続けてほしいと願っている。

(岡部 明子)



海と里山を同時に享受できるロビーラウンジ

(撮影/ 平剛風アトリエ)

優秀賞

一般建築物の部

建築主：銚子商工信用組合
設計：株式会社 竹中工務店
施工：株式会社 竹中工務店
岡田土建 株式会社
大勝建設 株式会社
所在地：銚子市東芝町1-19

地域経済活性化のシンボルとなる建築

銚子商工信用組合本店



透明さと堅牢さを併せ持つ建築

昭和28年創立以来、銚子市を中心に千葉県発展に貢献してきた銚子商工信用組合である。

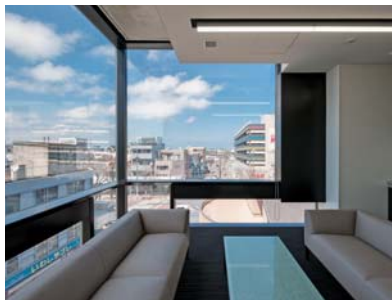
新本店は、地域住民に親しまれる身近な金融機関として更なる地域経済の発展と繁栄に貢献するため、外観は透明度が高く、街や地域住民に開放的でありながら街並みを映し込むことで周辺建物と調和させると同時に、免震構造を採用し、地域住民の人命や資産を地震・津波から守る銚子市津波避難ビルの認定を取得する等の高い堅牢さを併せ持つ、建築である。

「透明さと堅牢さを併せ持つ建築」

2つの相反する要素を両立させる柱・梁を同厚さにしたフラットプレート架構。

「映り込みや外部テラスの積極的配置による周辺地域との調和」

銚子の空や周辺建物の映り込み、さらに外部テラスの積極的配置により、周辺地域との調和を図った。



街の風景を最大限室内に取り込んだリフレッシュスペース

「街の風景を最大限取り込み、開放的で気積の大きな内部空間」

複層ガラスの最大級の窓をコーナーに配置することで、銚子の風景を最大限に取り込んだ。事務室天井は、構造床スラブを直天とし階高を抑えながら高い天井高さを確保し、気積の大きい開放的な内部空間を実現した。

「建物と街との優しく柔らかい繋がり」

夕方は建物の室内の光が窓やテラス越しから外部に溢れでることで周辺地域を優しく照らしたし、建物と街は柔らかに連続して繋がっていく。

これからの銚子市地域経済活性化のシンボルとなる建築である。

(圓崎 直之)



気積の大きい開放的な事務室

(撮影/FOTOTECA)

優秀賞

一般建築物の部

100年単位で使用されていく祈りの場所

梅郷礼拝堂

建築主：宗教法人 大師山 報恩寺
株式会社 笹川

設計：株式会社 加藤建築設計事務所

施工：株式会社 渡辺富工務店

所在地：野田市大殿井220-1



南西上空からの俯瞰

(撮影/ 畑拓)

応永2年(1395年)野田市内に創建された歴史ある寺院の別院で、廃寺となった寺院の再興計画、地域からの要望、来訪者の増加、檀家の希望などから、古い霊園を整備するとともに、新たに計画された礼拝堂である。100年単位で使用されていく祈りの場所にとって、建物の永続性が重要である。

デザインコンセプトは、歴史と環境に応答し場所の力を活かし高めるデザインで、長く大切にされる建物。新しい考え方を、三角形の流動的な平面で実現、使い方のバリアフリー。経年変化と耐久性に配慮した仕組みによって、長持ちする構造である。

新しい考え方を活かすため、組柱が相持ちで支え合った「木の空間」を構想、住宅で使う材を重ね合わせた玉簾状の柱によって組まれた空間は、



西側から礼拝堂と霊園全体を見る

身近な材の集積が特徴で、小さな材が助け合いながら1枚の大屋根を支えている姿は「梅郷礼拝堂」の思想に相応しい。

100年単位の永続性を支えるための接合方法は、金物などを使用しない木と木を切削し組み合わせ、力をダイレクトに伝達する方式、木材の繊維方向に支圧力を伝え、経年変化によるガタも生じにくく、荷重に対しても変形しにくい接合である。

一般に建物中央に軸が通る宗教的な空間に対して、場所、環境の要素を加えた柔らかな軸をつくり、多様な活動を誘発する計画である。

(圓崎 直之)



南方向池側、天井に池に反射した太陽光が映る

建築主：株式会社 人と古民家
 設計：株式会社 人と古民家
 施工：三浦建設 株式会社
 所在地：夷隅郡大多喜町大多喜1530

～統合的な地域活性化としての古民家再生ビジネスモデル～

一棟貸し古民家の宿「まるがやつ」



雄大な大屋根が特徴的な築200年の古民家「まるがやつ」 外壁はほぼ原型をとどめ建具を木製サッシに変更

近年、少子高齢化や人口・世帯数の減少を主因とする空き家率の増大が、全国的に大きな問題になりつつある。特に古民家と呼ばれる地方の古い伝統木造住宅は、その維持管理の経済的、技術的困難さやライフスタイルとのギャップ故に長年空き家として放置されたり、その末に解体されたりする事例に事欠かない。それに対し、本建築文化賞にその保存事例の応募数が継続的に増えてきており、首都圏にある千葉県における多様な建築文化の一角を占めるようになってきていることは大変喜ばしい。

さて、一棟貸し古民家の宿「まるがやつ」と名付けられた本事例の取り組みは、そのような単なる古民家再生の Kategorie を超越し、夷隅郡大多喜町の歴史的かつ地域的な生活文化の再興と活性化を目指している、と言う点から見てユニークである。しかも、それを自らのライフワークとも言うべき意図と目標として掲げた建築家集団が、関連する多様で幅広いステークホルダーのネットワ

ーク化に短期間で成功した。そして、その総力を結集し、持続的に圏外からの顧客を受け入れられるようなプログラムとビジネスモデルを構築して実現できたことは、職能の未来につながるあり方として特筆すべきである。

周囲の屋敷林や農地とともに再生された懐かしく美しい古民家と蔵を寝食の拠点とし、この立地特性のポテンシャル故に可能となった農や食等のスローな文化の体験をブレンドしたメニューの数々。それは、通常の建築再生行為が果たしうる境界を超え、大変魅力的である。世代や立場を超えた、今後のさらなる展開に期待したい。

(岩村和夫)



神棚の間 神棚は前のオーナーから引き継いだ
和室は構造や建具はそのまま再利用とした



神棚の間 神棚の間から続く和室の先は日本
庭園が望める

(撮影/ ㈱スペースフォト 水埜 公喜)

優秀賞

住宅の部

建築主：根本 成光
設計：株式会社 ゆま空間設計
施工：丸西建材 有限会社
所在地：香取郡多古町

山と民家の手入れは不可分

菅澤武兵衛邸



南側外観。玄関は正面に小さく設え、日常出入は別の勝手口。腰板、下見板は山の木。

屋敷と田畑と杉林をセットで相続した方からの依頼で、築百数十年の民家を改修したものである。多古町の谷戸を縁取るように点在する民家のひとつで、杉の大木が生い茂る山を背にして建っている。先代は林業を営んでいたといい、本来は良質の杉林だったが、放置されて久しかった。代替わりして、屋敷ほかを引き受けた方は、そもそもここに住んでいなかった。

家を改修するにあたり、「自前の杉を使うこと」が条件だった。まず、杉を伐採し製材し乾燥して建材として使えるようにする。結局、二年以上の歳月を費やした。また、元の建物をなるべくそのまま活かしている。部分的でも使える材は残し、腐食した部分のみを挿げ替えるなどして、ていねいに改修されている。接客や親族の集まるときに使われてきた続き間の和室および座敷にはほとんど手をつけていない。現代の生活スタイルに合うように改修する部分は、土間およびその奥に続く台所と食堂で、日常的に使う空間に限定している。

家主は、裏山の木を伐採するところから始めて、このような仕事を引き受けてくれる設計者を探すのに苦労したという。ようやく改修工事が終わって、都市部にある自宅に住みながら、週に3日程度、もっぱらこの家の管理のために、一人で滞在している。

古民家をお洒落な宿やカフェなどにリノベして、稼げる観光資源として活用する古民家再生がブームとなっているが、菅澤邸の家主は、世代を超えて山といっしょに屋敷を継承していく役目を定めとして引き受け、誰の気を引くためでもなく、膨大な労力を注いでひっそりと、山とともに民家を手入れしようとしているのだ。これこそが、古民家との本来の付き合い方ではないだろうか。（岡部 明子）



南東角15帖、10帖、8帖の和室
壁に漆喰、木部磨きで蘇る



元土間をLDKに改修
中2階を取り払い吹き抜けに改修

優秀賞

住宅の部

建築主：西川 岳男
設計：株式会社 田井勝馬建築設計工房
施工：株式会社 小島建設
所在地：富津市

日常から明日への活力を求めた空間

富津リゾートセカンドハウス



建物形態が日常を離れさせ、潮風等を軽減させる。

計画地のある富津市は東京湾に面して、対岸に横浜から横須賀、その先は富士を眺むことができる抜群の眺望である。横浜方面からはアクアラインを利用すると驚くほど短時間で移動ができること、計画地からは道路などの障害なく海が見えることが敷地選定のポイントとなったようだ。日常から離れた週末のセカンドハウスである。

建築主の主な要望は『非日常で心から寛げるリゾートセカンドハウスである』『どこからでも愛車を眺められる』『メンテナンス性が良く耐久性に優れている』ということである。建物への車のアプローチは前面道路から海へと真っ直ぐに延び、高揚感とともに自然と非日常へと誘導される。到着は穏やかな内房の海を臨むリビングとアウトドリビング(=中庭)に位置する車庫であり、そこで人と愛車が空間共有できる仕掛けとなっている。メンテナンス性については、外部擁壁と内勾配屋根のコの字型プランの採用により、海の方に視界を開放しながら、潮風を制御し、中庭への陽射し

を確保した。一見、RC造のようであるが木構造でコストを抑えながら、外装は清掃性と耐久性の良いサイディングの採用により、砂や潮を水で簡単に洗い流せるように配慮している。

この空間は建築主にとって最高のセカンドリゾートハウスであり、自然から明日への活力を得る空間としてまとまっている。

一方で外部から見ると完全に切り取られた空間となっており、隣家とのつながりや人気がないことに寂しさを感じた。今後海岸沿いの分譲地が富津市の活力となって発展することに合わせて期待したい。(藤本 香)



穏やかな内房の海を臨むリビング



リビング・テラス越しに海を愛でる

(撮影/ 大沢 誠一)

入賞

一般建築物の部

～乗馬の文化と融合した
ハイブローな建築・ランドスケープ～

東京クラシック 森のクラブハウス・馬主クラブ棟

建築主：株式会社 東京クラシック

設計：古谷デザイン建築設計事務所

施工：(森のクラブハウス) 株式会社 松村組 東京支店
(馬主クラブ棟) 根本建設 株式会社

所在地：千葉市若葉区和泉町364-28他

この作品は、欧米で遭遇する乗馬文化を想起させる。例えばパリ近郊のシャンティイにある競争馬の馬場と城と森であり、メキシコシティの高級住宅地にあるルイス・バラガンによる厩舎付住宅サンクリストバルである。その有様は全く異なるが、ともに由緒ある乗馬文化の歴史に裏打ちされた、日本ではなじみの薄い人と馬を巡るソサエティが作り上げた桃源郷である。

一方、ここはグレードの高いカントリークラブの附属施設。里道を隔てた樹林地のランドスケープを「アニマルウェルフェア」の一環と位置づけ、馬主のクラブハウスと厩舎が一体的に計画された。上記の后者をどこかで意識したと思われるが、RCのスレンダーな柱が林立する馬主クラブハウスは、グリッド状に植林された樹林地と呼応し、柔らかな緑化屋根の馬主厩舎から発せられる音や臭いとともに、独特なアトモスフェア（環境）で満たされている。訪れた夕刻の薄暮の下で灯りに照らされた施設群の風情は、とても美しかった。

竣工後間もない本作品は、まだ熟成された姿を見せてはいない。カントリークラブのコンセプトに掲げられた環境共生的な目的の達成は、一重に今後の運営と社会化の成否にかかっていると思われる。（岩村 和夫）



クラブハウス全景



馬主クラブ全景

(撮影/山内 紀人)

入賞

一般建築物の部

子どもたちの「生きる力」を育む保育の実現を目指す

一宮どろんこ保育園

建築主：社会福祉法人どろんこ会

設計：ユニップデザイン 株式会社

施工：片岡工業 株式会社

所在地：長生郡一宮町一宮8683

一宮川沿いにあった町立一宮保育所は、建物の老朽化対応（築33年超）と、震災時の津波被害を懸念する声が出ていたことから、一宮地区高台（海拔2m→13m）に移設が計画された。同時に、これまで町内に設置されていなかった幼稚園のニーズにも対応した（それまで、児童は隣接する市町の幼稚園へ通園していたという）保育所型認定こども園として、その運営が民間法人に引き継がれた。

広大な敷地（8,000㎡）に、定員170名（保育150・幼稚園20）の大規模木造の園舎は、南側に広がる園庭を囲むようにL型に配置されている。保育室・遊戯室は大断面集成材を用いて大空間を構成し、異年齢児が自由に行き来できるワンルーム形式を基本とし、保育室の前面に連続して広く長く続くデッキ（縁側と縁側広場）を介して、園庭まで素足で行動できる構成になっている。

園のシンボルとなる展望デッキ広場で歓声を挙げる園児たち、一方で構造体に取り付けられた木製遊具で身を屈めて黙々と遊ぶ園児の姿が印象に残った。

町の子育て支援センターも併設（町営）。安心して子育てができる環境づくりを推進する一宮町に於ける、重要な拠点として機能することに期待したい。（夏目 幸子）



庭園の芝生広場より園庭を眺める



照明と一体となった木造梁が連続する異年齢保育を行う保育室

(撮影/小川 重雄)

建築主：株式会社 オークハウス
設計：笠掛伸建築設計事務所
施工：株式会社 ダイニチ
所在地：船橋市中山3-19-2

入賞

住宅の部

街に寄り添い、人に寄り添うシェアハウス ソーシャルレジデンス船橋

築約45年の社員寮を改修して、シェアハウスとして再生させたものである。

計画地は都心から比較的アクセスが良く、駅前には商店街、周辺環境は道路幅員2m~4m程度の都市のスケールとしては小さい密集地である。既存建物は高さ間口奥行が大きく、アプローチも幅員6mで周辺との関係性を分断していた。計画ではアプローチ両端に植栽の緩衝地帯を設け、ファサードを水平に分断する庇から下のデザインを強調することで街のスケールに寄り添うことを目指している。

内部は仕上材に木や自然素材を多用して暖かみを持たせた。また個々の居住空間に加えて、住民同士がコミュニティを育むためのキッチンやライブラリーを共有部分として併設した。暮らすことの心地よさをシェア出来るように配慮している。

発注側も実際入居していて居住者をリードできるようになっているのも印象に残った。居住者は社会人、学生をが主流で外国人の割合も3~4割に達するそうだ。一般的にひとり暮らしを始めると手続きや準備が煩雑だが、かばんひとつから入居できるのも魅力だ。現状は居住者に高齢者はいないそうだが、一定の設備が整えば健康な高齢者が住まうといった、新しい居住形態も可能なのではないだろうか。

(藤本 香)



街のスケールを引き込むことを意図したアプローチ空間とファサードデザイン。



住民が集うラウンジは、オーク材のフローリングと白を基調とした大らかなデザインとしている。
(撮影/山本 育憲)

選考の基準

次の事項を選考の基準とし、総合的に審査します。

- デザイン性に優れていること
- 安全で快適な建築空間を創出していること
- 防災への配慮がなされていること
- その他、独自の取組や提案がなされていること
- まちなみや周辺の景観と調和がとれていること
- 環境負荷の低減に配慮していること
- 施工上優れていること

※建築基準法等の諸法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないこと等も求められます。

千葉県建築文化賞検討会議

【敬称略 委員は五十音順】

委員長 北原 理雄：千葉大学名誉教授

委員 圓崎 直之：一般社団法人千葉県建築士会名誉会長

副委員長 岩村 和夫：東京都市大学名誉教授

委員 岡部 明子：東京大学大学院教授

委員 夏目 幸子：建築家、NPO住まい・まち研究会理事長

委員 藤本 香：建築士、千葉大学非常勤講師

千葉県建築文化賞は、多くの皆様の協力に支えられ、回を重ねてまいりました。

その間、県下の広い地域にわたり、137の建築物が受賞され、

それぞれの地域に根付いています。

第25回の作品募集は、平成30年夏頃行う予定です。

皆様方の御応募をお待ちしております。



千葉県
マスコットキャラクター
チーバくん

千葉県建築文化賞の実績(応募点数・受賞作品数)一覧

回数	年度	応募総数	建築文化賞			合計	建築文化奨励賞
			部門				
1~19回計 (H6~H24)		1,600	景観上優れた建築物の部	46	96	58	
			ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部	26			
			環境に配慮した建築物の部	24			
20	H25	68	一般建築物の部	4	6	2	
			住宅の部	2			
1~20回計		1,668			102	60	

回数	年度	応募総数	部門別内訳	部門	建築文化賞			
					最優秀賞	優秀賞	入賞	合計
21	H26	52	32	一般建築物の部	1	2	3	6
			20	住宅の部	0	1	2	3
22	H27	54	33	一般建築物の部	1	3	2	6
			21	住宅の部	1	1	0	2
23	H28	98	52	一般建築物の部	0	3	2	5
			46	住宅の部	0	3	1	4
24	H29	81	56	一般建築物の部	1	3	2	6
			25	住宅の部	0	2	1	3
合計		285			4	18	13	35

※1 千葉県建築文化賞は、「景観上優れた建築物の部」及び「高齢者・障害者等に配慮した建築物の部」の2部門への表彰制度として平成6年度に創設。

※2 第3回(平成8年度)に「建築文化奨励賞」を新設。 ※3 第5回(平成10年度)に「環境に配慮した建築物の部」部門を新設。

※4 第12回(平成17年度)に「高齢者・障害者等に配慮した建築物の部」から「ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部」へと部門の名称を改称。

※5 第20回(平成25年度)に「景観上優れた建築物の部」、「ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部」及び「環境に配慮した建築物の部」の3部門から「一般建築物の部」及び「住宅の部」の2部門へと部門を再編。

※6 第21回(平成26年度)より「建築文化賞」及び「建築文化奨励賞」から「最優秀賞」、「優秀賞」及び「入賞」へと賞の区分を再編。

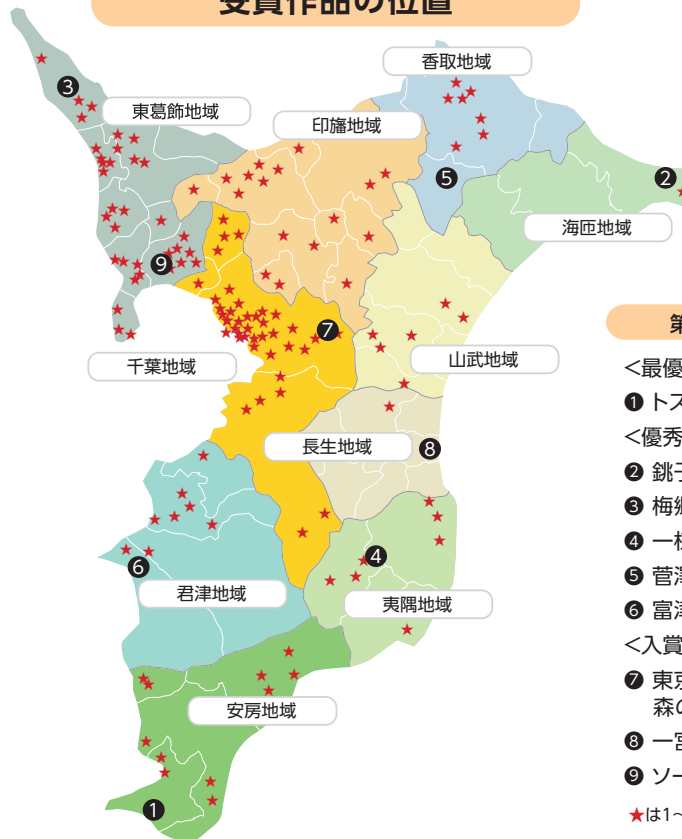
第24回千葉県建築文化賞に御応募いただきました皆様へ厚く御礼申し上げます。応募総数81点の中から最優秀賞1点、優秀賞5点及び入賞3点の、合わせて9点が選定されましたが、応募作品はいずれも優れた特徴をもった質の高い作品でした。作品に携わられた皆様に敬意を表し、今後ますますの御活躍を期待しております。(千葉県建築文化賞検討会議事務局)

建築文化賞受賞作品

所在市町村別の数

千葉市	29
習志野市	1
八千代市	3
原市	5
市原市	5
船橋市	7
松戸市	6
野田市	5
柏市	4
流山市	5
鎌谷市	1
浦安市	3
佐倉市	2
八街市	1
四街道市	2
白井市	1
栄町	1
成田市	2
富津市	1
香取市	6
山武市	2
東金市	3
網走市	1
大網白里市	1
大多喜町	4
いすみ市	3
鴨川市	4
南房総市	3
館山町	3
銚子市	2
袖ヶ浦市	1
君津市	5
君津市	1
富津市	2
茂原市	1
酒井町	1
勝浦市	1
跳子市	2
多古町	1
宮町	1
計	137

受賞作品の位置



第24回千葉県建築文化賞

<最優秀賞>

① トスラブ館山ルアーナ

<優秀賞>

② 銚子商工信用組合本店

③ 梅郷礼拝堂

④ 一棟貸し古民家の宿「まるがやつ」

⑤ 菅澤武兵衛邸

⑥ 富津リゾートセカンドハウス

<入賞>

⑦ 東京クラシック

森のクラブハウス・馬主クラブ棟

⑧ 一宮どろんこ保育園

⑨ ソーシャルレジデンス船橋

★ 1~23回の建築文化賞受賞作品

お問い合わせ先

千葉県県土整備部都市整備局建築指導課
一般社団法人 千葉県建築士会

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1
TEL.043(223)3180 FAX.043(225)0913

〒260-0013 千葉市中央区中央4-8-5
TEL.043(202)2100 FAX.043(202)2101

後援

(公社)千葉県建築士事務所協会

(一社)日本建築構造技術者協会関東甲信越支部JSCA千葉

(一社)日本建築学会関東支部千葉支所

(公社)日本建築家協会関東甲信越支部千葉地域会

(一社)千葉県設備設計事務所協会